（第２号様式）（用紙日本工業規格Ａ３横長型）
神奈川県教育委員会教育長　殿

提出日：令和５年４月 28 日
学校名：県立津久井浜高等学校

令和４年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （３月 20 日実施）	総合評価（３月 25 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒の学習意欲を高め、未来を切り拓くことのできる自立した学習者を育てる。そのための教育課程を編成する。 ②生徒の主体性を育むため学校行事・探究活動等を活性化させ、社会に通用する人間を育てる。	①形成的評価に対する校内理解をさらに進め、生徒の学習意欲を引き出す授業研究を行う。教育課程については改善を続ける。 ①一人一台端末を効果的に取り入れられるよう授業研究を行う。 ②学校行事・探究活動への取り組み方を個々人に考えさせ、自ら未来を切り拓くことのできる人間を育てる。	①形成的評価の校内理解を深め、一人一台端末を効果的に取り入れ生徒の学習意欲を引き出す授業研究を行い、指導の改善を目指す。教育課程を常に見直す。 ②行事を通して親睦を図る中で、他者とのコミュニケーションを積極的に構築し、自己の可能性を広げる。「総合的な探究の時間」での取組みを中心に、他者とのより良い人間関係を構築できるコミュニケーション能力を高めるような指導を行う。	①形成的評価の理解が深まり、生徒の学習意欲を引き出す授業研究ができたか。 ②行事を通して、他者に積極的に関わり、自己の世界を広げることができたか。 ②各生徒が自己のコミュニケーション能力の向上を確認することができたか。	①形成的評価の校内理解を深めることはでき、一人一台端末を効果的に取り入れ生徒の学習意欲を引き出す授業研究を行った。また、教育課程の見直しを行った。 ②津浜祭が無事に実施できた。多くの生徒が主体的に参加し、運営や発表を通じて自己成長に繋げることができた。	①形成的評価の理解は深まったが、一人一台端末を効果的に取り入れ生徒の学習意欲を引き出すためには、さらなる授業改善を続けていく必要がある。 ②後夜祭について、実施方法や時間設定など、生徒への教育効果がより効果的なものになるよう検討をすすめるとともに、より多くの人が楽しめるイベントとしての実現を目指していく。	①校内評価から、形成的評価への理解や運用が深まったことがうかがえる。一人一台端末の活用については、今後さらなる研修を深め、授業改善に活かしていただきたい。また、中高で連携し授業見学の場を設定していただきたい。 ①中堅進学校としての学習補償について、具体的な目標や取り組みを学習指導の方針に位置付けてはどうか。 ②津浜祭については、コロナ禍にあっても生徒が主体的に参加し、工夫を凝らしている様子がうかがえた。	①個々の職員の形成的評価に関する理解が深まり、より生徒の実態を反映した成績決定に資するものとなった。 ①一人一台端末を活用した授業展開については、全体的に活用状況が進んでいるものの、依然教科や職員間における差異が見られる。ＩＣＴを活用した授業を見学する期間を設けたが、十分に生かされているとは言えず、実施方法の見直しが必要である。 ②コロナ禍により見送られていた津浜祭が、校内発表のみではあったが実施された。制限のある中ではあったが、結果として生徒の自主性や協調性を育む行事となった。	①新学習指導要領の理念の再確認と、それに基づく指導力向上について、研修や授業研究等を通じあらためて職員の共通理解を深め、より一層組織的な授業改善に取り組む ②ＩＣＴ機器を活用した授業例について、参考になる映像や資料を職員で共有し、意識の向上を図るとともに、授業見学や校内研修などを積極的に計画・実施し、一人一台端末の活用をさらに広め、学習効果を高める工夫を組織的に行う。 ③インクルーシブ教育実践推進校として、総合的な探究の時間等を活用し、他者とのかかわりやコミュニケーション能力の向上を目指したワークショップを実施する。
2	（幼児・児童・） 生徒指導・支援	①基本的生活習慣の確立を図る。 ②部活動等を通し、自己肯定感を高め、自己理解・多様性の理解につなげる。 ③生徒個々の理解のため組織的な対応をし、ユニバーサルデザインの考え方に基づいた居心地の良い学校をつくる。	①登下校指導を含めた日々の取り組みで基本的な生活習慣の確立を図る。 ①挨拶の励行を勧め、社会に通用する生徒を育てる。 ②命の大切さを伝え、生徒が自己肯定感を高められるような教育を推進する。 ③共生社会実現のため、また生徒理解のため、組織的に対応し、ユニバーサルデザインの考え方に基づいた全ての生徒にと	①登下校指導や昼休みの立番指導等での挨拶や言葉掛けを通して、基本的な生活習慣を涵養するとともに、校則に則った身だしなみを意識するよう指導を行い、その後の個別指導につなげる。 ②部活動間の交流や協力によって、さらに学校全体を盛り上げていく仕組みを作っていく。生徒個々が生徒会行事等で活躍し、達成感を得られる場を創出する。 ③視覚的支援を中心に、すべての生徒が生活しやすい環境を整える。また、学習支援の充実を図る。	①登下校指導や立番指導を通して、身だしなみについての日常指導ができたか。生徒個々の挨拶の意識を高めることができたか。また、違反生徒への効果的な個別指導ができたか。 ②部活動間の交流や協力ができたか。個々の部活動の取り組みを学校全体の活性化に繋げることができたか。 ③ユニバーサルデザインの考えに基づく環境整備が行えたか。また、学習支援体制について、様々な実践を行うことができた	①登下校指導を行った週の身だしなみに関する違反生徒数は、行わない週に比して激減した。また、校内で挨拶を交わす生徒数は増えてきた。 ②津浜祭などの行事準備や運営に、部活動・同好会が主体的に協力することができた。生徒から学校への要望について、生徒会執行部と話し合い、問題解決に向けて努めることができた。 ③各階に校舎案内図を掲示し、移動教室などの際に役立てることができた。 ③全教室にホワイトボードを設置し、学習活動等の諸連絡を周知することができた。	①秋以降に防寒着としてパーカーを着用する生徒と気温の低い冬季にスカートの代わりに体育ジャージを着用して登校する生徒が多くなったので、次年度の指導の仕方を検討していく。 ②「生徒会目安箱」の設置・活用方法を執行部とともに継続的に検討していく。 ③校舎案内図については、より分かりやすい掲示の方法を検討する必要がある。 ③教室内のユニバーサルデザインについて、「刺激量の調整」や「場の構造化」など学習活動に集中できる環境づくりについて、職員の共通認	①身だしなみや挨拶の指導など、熱心に取り組んでいる様子がうかがえる。生徒同士でお互いに高め合う活動を考えてみてどうか。 ②教育相談に関する校内状況等を学校運営協議会等に知らせるとともに、生徒の困り感などについて職員の共通理解を深めていただきたい。 ③インクルーシブ教育実践推進校として、ユニバーサル・デザインへの移行を進めていると感じる。今後もより一層職員の共通理解を深め、生徒・職員共に過ごしやすい空間づくりに努めていただきたい。	①身だしなみの指導を含めた校則や指導方針について、生徒の人権に配慮し、現状に即したものになっているか検証が必要である。 ②生徒の考えを聞くための目安箱を設置した。今後寄せられた意見等をどのように取り扱っていくかを検討する必要がある。 ③教室内のユニバーサル・デザインについては、一定の共通理解は得られており、生徒が授業等に集中できる環境作りが実現できているが、授業のねらいや内容の提示については、さらに組織的に取り組む必要がある。 ③毎回の職員会議前に、生徒情報交換会を実施し、気になる生徒や支援が必要な生徒に関する情報を共有し、該当の生徒支援に資することとなった。	①生徒指導方針について、生徒支援グループを中心に見直しを行い、必要に応じて実効性のある、生徒・保護者の理解を得られるものに改定する。 ②生徒の主体性を高める方策の一環として、各種委員会における生徒の主体的な参加をより一層活性化し、生徒との協働による学校行事の運営を工夫する。 ③玄関にある校舎案内図における各部屋等の名称を現在の名称に修正する。また、廊下等に掲示してある校舎案内図を、さらにわかりやすくすることで、新入生や保護者等が安心して校内を移動できるよう工夫する。 ③「本時の目標」「授業内容」の提示を全教科で取り組み、生徒が見通しをもって学習できる環境を整える。

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （３月 20 日実施）	総合評価（３月 25 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
			って居心地の良い学校をつくる。 ③ケース会議において個々の支援の充実を図る。	③教育相談について、個々の生徒に対する情報共有の場面を設け、支援や配慮を充実させる。	か。 ③教員間で、生徒の情報共有を行い、組織的に対象生徒への支援に生かすことができたか。	③プロジェクターなどのＩＣＴ機器の活用により視覚的支援や学習支援体制を充実させることができた。	識が必要である。 ③学習効果向上や視覚的支援を目指して、ＩＣＴ機器の効果的な活用についての職員研修が必要である。			
３	進路指導・支援	①生徒一人ひとりが自己の人生設計のもと、進路を選択できるように組織的に支援する。 ②将来の進路希望実現のために努力する人間を育てる。	①生徒一人ひとりが、チャレンジ精神を持ち続け、希望の進路を実現する選択ができるよう、具体的に支援する。 ②未来を切り拓くために努力する人間を育てる。そのための方策を具体的に提示する。	①教員からの指導だけでなく、卒業生からの情報提供や支援を得て、生徒各自が明確な進路希望を持ち、それを実現できるような指導を行う。 ②スタディーサポートの活用状況の改善を図るとともに、新たな適性検査の導入によって、生徒一人ひとりの特性や能力を客観的に把握して支援を行う。	①個々の生徒が様々な情報や支援を得て、主体的に進路選択を行うことができたか。 ②スタディーサポートや適性検査の結果を、各生徒に対する有効な進路指導に活かすことができたか。	①公務員志望の生徒に対して、公務員採用試験を突破し、現在公務員として働いている卒業生を招き、講演を行った。参加生徒には大きな刺激となった。 ②スタディーサポートの結果を踏まえ、担任が面談等を通して、生徒に対する学習指導や進路指導に活かしていくことができた。	①公務員・就職希望の生徒だけでなく、上級学校進学志望の生徒に対しても卒業生による講演が可能であるか模索していく。 ②スタディーサポートだけではなく他社のシステムの検討を行い、より良い学習・進路指導に関する研究を行なっていく必要がある。	①中堅進学校として、どのように進路保障を考えているのかつかみづらい。具体的な取り組みについてさらに明らかにしていただきたい。 ①中学校側からすると、高校進学後、何を考え、自己実現に向けてどのような目標を持ち、高校生活を送っているか知る機会があるとよい。	①大学・専門学校説明会を実施し、生徒の卒業後の進路についてより明確なイメージを持たせた。また、現在公務員として働く卒業生を招聘し、公務員希望者に対し準備や心構えについて講演を実施した。 ②スタディサポートによる多角的な分析を通じ、主に担任や支援担任が、生徒の特性や進路希望実現に向けた助言を行うとともに、三者面談等で保護者に伝える場面を設けた。	①生徒の入学当初の進路希望の実現を目指し、１年生の段階から大学・専門学校説明会等の進学に係るガイダンスや、卒業生による進路講演会等を実施し、生徒の進路に関する意識と学習意欲の向上を図る。 ②特別募集生徒に向けた進路支援について、１年生の段階から職員研修会等を開催するなどして、充実した支援体制を作る。 ③スタディサポートについては、今後の活用方法や他の方策の導入の有無について検討していく。
４	地域等との協働	①豊かな人間性を育むために、地域等の教育力を活用する。 ②地域に根差し、地域に貢献できるソーシャル・レスポンシビリティの精神を涵養する。	①学校運営協議会等を通じ、地域や他校種等とのコミュニケーションを増やし、学校外の教育力をさらに活用する。 ②状況に応じてボランティアや地域の活動に積極的に参加するとともに生徒・教職員がソーシャル・レスポンシビリティの精神を身に着ける。	①学校運営協議会等を通じ、大学の出前授業や同窓会との協働など、地域との連携を深め、教育力を活用する。 ②ボランティアや地域活動の募集案内を整理し、最新の情報を広く生徒に周知する。また、教職員の積極的な参加を促す。	①コロナ対策などを踏まえ、委員会活動、部活動、探究活動を通じて学校外の人材活用ができたか。 ②ボランティアや地域活動の募集案内を整理し、生徒・教職員の参加数が増加したか。	①探究活動の一環で地域魅力化プロジェクトを実施し、地域に貢献した。 ②ボランティアや地域活動の募集案内を整理し、感染状況を踏まえて参加させた。昨年度より参加者は増加した。	①各事業所とうまく連絡が取れない、直前に断られたなどの課題があったので、事前の準備を入念に行う必要があった。 ②年間を通したボランティアの計画を生徒に示し、より多くの生徒や教職員の参加を促す。	①生徒が地域の中でリーダーシップを発揮できる場として、中学校を活用する計画を立てていただきたい。 ①コロナ禍が続き、同窓会として母校になかなか貢献ができなかったが、今後は要望に応じて在校生への支援をしていきたい。 ①学校運営協議会については、計画的に開催し、学校要覧や PTA 広報紙などの資料を提示していただくことで、より具体的な提言ができると考える。	①１学年において、総合的な探究の時間の一環として、地域応援プロジェクトを実施し、商工会議所等と協働しながら、地域の商店や企業の PR ポスターを作成するなど、生徒が地域社会をより具体的に知り、興味を高める活動を行った。 ②地域のウォークラリーやマラソン大会におけるボランティアに生徒が参加し、大会参加者やスタッフの方たちと交流することで、生徒が地域貢献をすることの意味を実感することができた。	①学校運営協議会については、集合して行う形に戻し、地域や本校関係者の指導・助言を直接聞く場にして、より質の高い学校経営実現に反映させる。 ①総合的な探究の時間を通じ、今後も継続的に地域にかかわるプロジェクトを計画し、生徒の地域貢献に関する意識の醸成を目指す。 ②ボランティアについては、さらに多くのボランティアの場を生徒に紹介し、積極的な参加を呼び掛ける。
５	学校管理 学校運営	①信頼される学校づくりのため、様々な状況を外部に情報発信するとともに事故・不祥事防止に努める。 ②学校の安全な環境整備を行い、生徒の学習環境を保障する。	①ＨＰの更新を素早くし、地域回覧の回数を増やし、本校の魅力をさらにアピールできるようにする。 ②生徒の安全を保障するために環境整備を進める。また、学校全体の防災意識を高めるため具体的な活動を行う。	①ＨＰ、地域の回覧板を用いて、広い地域、町内会等を意識した広報活動を実施する。 ②清掃・美化活動や防災訓練を通して、環境整備や安全・防災に関する意識の向上を図る。また、新型コロナ感染対策に必要な物品を用意し、生徒の安全な学習環境を保障する。	①ＨＰ、地域の回覧板を十分に活用できたか。 ②美化委員や防災委員の活動を通して、生徒の環境整備や安全・防災に対する意識の向上が見られたか。	①広報活動として、ＨＰへの行事報告の掲載や、地域の回覧板を用いた広報誌の配付を行った。 ②清掃・美化活動や机上防災訓練を実施し、環境整備や安全・防災の意識の向上を図ることができた。感染症対策についても、必要な物品を用意して安全な環境保障に努めた。	①ＨＰの構造が複雑になり更新に時間がかかったので、職員間で情報を共有し迅速な対応をしていく。 ②防災委員は DIG 研修や防災訓練のクラス連絡等で活躍した。美化委員会については、次年度はさらに定期的に美化活動を呼び掛けるなどして、環境美化を推進していきたい。	①ＨＰへの掲載は、内容が不十分で、タイムリーに広報できていないと感じた。地域への回覧版があるのであれば、学校運営協議会でも提示していただけるとありがたい。 ②防災訓練や防災教育について、学校としてどのように取り組んでいるか、具体的な内容を周知していただきたい。	①ＨＰの内容については、古い記事等がそのまま残っているケースが散見された。今学校でどのようなことが行われているか、また提出が必要な書類等の周知に学校 HP を効果的に活用する必要がある。 ②防災訓練については、本年度もオンラインで実施した。DIG 訓練については、ハザードマップを各クラスに配付し、グループ作業で取り組むことで、周辺の施設等の理解につながった。本校は海岸から至近距離にあり、より実効性の高い防災訓練を実施する必要がある。	①津久井浜高校の魅力をより一層効果的に発信し、本校の理解を深めてもらうために、Instagram 等の公式 SNS の活用を検討する。また、最新の情報を掲載するように努める。 ②生徒・職員の防災意識を高めるために、より具体的な場面を想定した避難訓練や DIG 訓練を実施する。また、防災備品や食料について、定期的に保存状況や消費期限等の確認を行い、必要に応じて交換をしたり、喫食訓練に回したりするなどして災害に備える。